

# 『胃がんリスク層別化検査』 検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご隆盛のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、別掲の検査項目におきまして、検査内容を変更させて頂くことになりましたのでご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

敬 白

## 記

《検査項目》 (8070) 胃がんリスク層別化検査(ABCD分類)

(8050) 胃がんリスク層別化検査(E群)

《変更日》 2020年3月31日(火) 受付分より

《変更内容》

検査コード	項目名称	変更箇所	変更後	変更前
8070 /8050	胃がんリスク層別化検査 (ABCD分類)/(E群)	変更検査項目・ 報告名称、及 び検査方法	ヘリコバクター・ ピロリ抗体(LA) <sup>※1</sup> LA法(ラテックス凝集比濁法)	ヘリコバクター・ ピロリ抗体(EIA) EIA法
		基準値	判定基準:4 U/mL 未満	判定基準:3 U/mL未満
		所要日数 <sup>※2</sup>	2~4日	3~6日
		備考	<sup>※1</sup> :ヘリコバクター・ピロリ抗体(LA)は、「胃がんリスク層別化検査」専用検査です。(測定試薬:LタイプワコーH. ピロリ抗体・J/富士フイルム 和光純薬株式会社) <sup>※2</sup> :胃がんリスク層別化検査としての所要日数です。	

その他の検査要項に変更はございません。

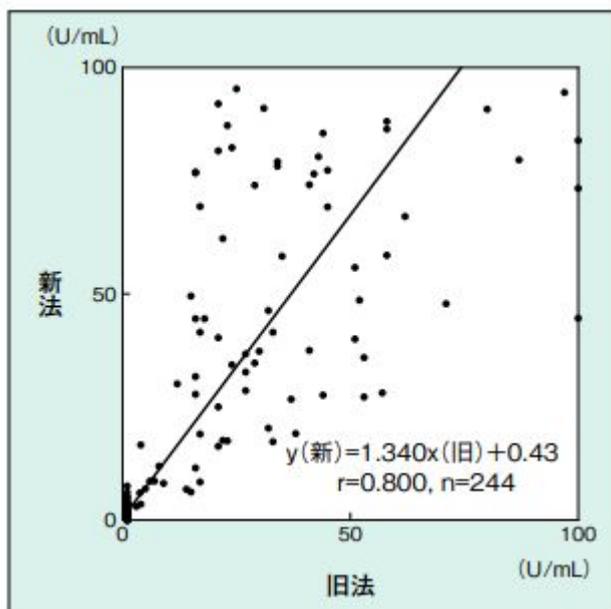
**留意事項**:ヘリコバクター・ピロリ感染の保険適用としてご依頼される場合は、臨床用の[4047]ヘリコバクター・ピロリ抗体(LA法)をご利用ください。

## 《相関・判定一致率》

認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構から、ヘリコバクター・ピロリ抗体検査の試薬について、現在使用しているEIA法試薬とは別にラテックス法試薬を推奨する発表がなされました。

今回の発表を受け、その中で評価されている別メーカーが販売するラテックス凝集比濁法(LA法)へ変更致します。

新法は現行法と比べ未除菌の萎縮性胃炎症例における抗体偽陰性率が有意に低くなり、胃がんリスク診断の偽A群判定率が低減します。



判定一致率

		旧法		計
		陽性 (+)	陰性 (-)	
新法	陽性 (+)	77	5	82
	陰性 (-)	2	160	162
計		79	165	244

陽性一致率：97.5% (77/79)

陰性一致率：97.0% (160/165)

判定一致率：97.1% (237/244)

## 《判定基準》

		【新】 H.pylori抗体法 (LA)		【旧】 H.pylori抗体法 (EIA)	
		(-) 4U/mL未満	(+) 4U/mL以上	(-) 3U/mL未満	(+) 3U/mL以上10U/mL未満 10U/mL以上
PG法	(-)	A群	B群	A群	除菌する場合は必ず存在診断を行うこと* B群
	(+)	D群	C群	D群	C群

\*除菌する場合は、必ず他のH.pylori検査を実施し、ピロリ菌の存在診断を行って下さい。

※旧法では、3U/mL以上10U/mL未満でのB群は除菌する際には他法にてピロリ菌の存在診断を行う必要がありました。しかし、新法では4U/mL単独で判定できるため、追加の検査は必要ありません。